

「はじめに」

沖縄森林管理署長 平沼孝太



たいと思います。

皆様には、日頃より国有林野事業の運営に際しまして、格別のご支援、ご協力を賜り心より御礼申し上げます。沖縄森林管理署では、沖縄の素晴らしい自然環境の保全と地域振興に貢献するため、国有林野の管理、希少野生生物種の保護管理、治山事業等を実施しているところです。昨年のこの紙面で、国民の森林として幅広い理解と支援を頂くための取組みの1つとして、「首里城古事の森」設定の準備をしていることをご紹介しました、皆様の多大なるご協力の下、無事設定することができました。今回は、その概要についてご報告するとともに、今後、この成果をどのように生かしていくか、その方向について述べさせていただきます。

○「古事の森」とは

平成14年度、林野庁が、作家の立松和平氏の提唱を受け、国民参加による木の文化の継承に貢献する森林づくり活動を推進するため、「木の文化を支える森づくり」制度を創設、このうち、特に歴史的建造物の修復等に必要な資材の供給等を目的とした森林づくりを一般的に「古事の森」と呼んでいます。「首里城古事の森」は全国で9箇所目となりました。

○沖縄の木の文化の歴史と現状

沖縄では、琉球王国時代から首里城、竹富島の赤瓦屋根の家並みなどの木造建築や琉球漆器などの伝統工芸品、さらには沖縄の伝統芸能を支える三線などにおいて、多様で豊かな温もりのある木の文化が育まれてきました。しかしながら、近年、例えば首里城の主要な建材であるイヌマキ資源の沖縄での減少等の問題が生じています。また、沖縄県内の一般住宅のほとんどは鉄筋コンクリート造りとなっていることなど、身近な木の文化の継承が心配される状況にあります。

○「首里城古事の森」の設定

このような状況から、琉球の木の文化を育み再生可能な資源である木材利用の大切さを普及啓発し、ひいては沖縄の森林・林業ビジョンづくりへの契機とするため、一部世界文化遺産でもある首里城の復元、修復に使われるイヌマキを中心とした「首里城古事の森」を設定しました。具体的には、これらの活動を行うため、尚弘子琉球大学名誉教授を会長として設立された「首里城古事の森育成協議会」と共催で、平成20年11月29日、立松和平氏を迎えて首里城公園内でシンポジウムを開催し、翌30日、沖縄県北部国頭村内の国有林で地域の小学校の皆さんとイヌマキの植樹を行いました。これらの活動は、沖縄県が進めている「沖縄県全島緑化県民運動」の1つと位置づけられ、今後とも県内外の多くの関係者の皆様のご支援により有意義なものとなるよう努力していくこととしています。

○今後の取組みの方向

首里城でのシンポジウムの中で、地域の森林は、その地域の森林を守り、共に暮らし、その歴史を知る地域の方々の意見を最大限尊重すべきとの議論がありました。近年、やんばるの森林の利用を巡って、激しい議論が行われていますが、その地域の木材の利用、森林との関わりの歴史を再認識し、森林・林業のありかたを考えることが必要と思われれます。また、多様で豊富な森林資源を有する西表島はじめ多くの離島の所在する竹富町では、本年9月、「竹富町議会森林・林業活性化議員連盟」を設立し、貴重な自然環境の保全とともに、豊富な水資源の活用、木の文化の継承等森林・林業について幅広く考えていく活動が始まっています。沖縄森林管理署は、このような沖縄の各地域の森林・林業のビジョンづくりに向けて、フィールドとして、或いは、議論の場として少しでも貢献できるよう努力して参りたいと考えております。今後とも皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。